

広島市教育センター所報

No. 14
昭和58年11月

広島市教育センター
広島市東区牛田新町一丁目17番1号
〒730 電話 (082) 223-3563

る ざん の しん めん もく 盧 山 の 真 面 目

広島市教育センター次長 末 森 一 男

宋の詩人蘇軾（蘇東坡）が江西省盧山の山中、西林寺の壁に一篇の詩を詠んでいる。

それは、「盧山は、横から眺めれば山脈、側に近づいて見れば峰を成している。山容は雄大で、遠近高低、見る方向によって変化が著しい。盧山本来の姿（真面目）がわからないのは、この山中深く入りこんでいるからだ」という意味のもので、物事の真相をとらえるためには、客観的・多面的に観ることの大切さをたとえたものである。

これを生徒指導に引きあててみると、個性や特徴の異なる児童生徒一人ひとりの姿を理解する場合に、その外見的な行動や特徴から、さらに内面的な情動や自己自身についての見方まで深く理解することなしには、その本来の姿をとらえることは難しいということになる。

最近の児童生徒は、自制心の欠如、衝動的、他者追隨的、規範意識が希薄、欲求不満に対する耐性がとぼしい等々、その行動的特徴がしばしば指摘されている。ときには、「教育の敗北」とも言えるような大きな課題が提起され、従前の指導原理や方法だけでは解決が難しいものもある。そのため教師の中には、権威の喪失を慨嘆し、戸惑いと焦燥、あきらめの中に陥っていく者はいないだろうか。

児童生徒は、嵐にむかって立つ若樹である。まだ根も浅く、傷つき倒れやすく、自分の生き方について模索し、どうしようもない不安

な状態から脱皮するために試行錯誤を繰り返している世代である。

この世代が学校教育に求めているのは、まず「開かれた教師」である。それは、この世代の感情や願望、不安や苦しみ、悩みや戸惑いなどを共感的に理解し、彼等の自己実現を援助してくれる舵取りとしての教師である。また、姑息な愛情の表出よりも、時には揺れ動きながら成長する彼等の前に立ちほだかり、時には拒否し、親味になって戒めることのできる教師ではなかろうか。

盧山の真面目は、峨々として聳える峯や絶壁、奔流となって落下する瀑布や谿谷を跋涉し、山頂から周囲を俯瞰したとき、その山容や、盧山本来の姿に触れることができる。

いつのまにか「教育の荒廃」という唾棄すべき言葉が横行し、また、安易にこれを容認する状況があったとしても、それを学校に根づかせてはならない。

私たち教育に携わる者の仕事は、盧山の真面目を究めるように苦勞の連続であろうが、その苦勞と同居し、それを受容し、それを乗り越えることによって児童生徒の心を育てることができる。この自覚が教育の原点である。

私たちは、人間として多くの弱点を持ちながらも、生徒指導の課題にむかって、「自強息まず」の心を柱として、自らの研究・修養に努め、児童生徒の真面目をとらえたいものである。

教育相談に思う

— 親子関係について —

広島市教育センター指導主事 橋本 郁

○ A君は高校生、暑い日差しの中を山の上にある教育センターまで自転車を押して汗びっしょりになりながら登ってくる。彼との相談も今日で5回目である。

登校を拒否し、家庭内では暴力をふるう彼の小・中学生時代は順調そのものであった。

学習面でも生活面でも常に級友の模範であった彼は同時に両親にとっても自慢の種であった。しかし、難関をパスして念願の高校へ入学し新しい学園生活が始まったときから少しずつ変化が生じてきたのである。

親や周囲からの過剰な期待をになって必死で頑張ってきた彼は授業のときのちょっとした失敗がもとで強い挫折感を味わい自信を失ったのである。これは、いわゆる優等生の息切れによる登校拒否のケースである。

○ 中学生のB君は母親に伴われて来所したが終始じっと下を向いたままであった。「大変お恥ずかしいことですが」と言いにくそうに話し始めた母親はB君の万引についての不安を打ち明けた。

きちょうめんな性格の母親は、同居している夫の両親への遠慮もありB君を必要以上に厳しく育ててきた。それだけにB君の万引は母親にとって耐えられないものであった。

このケースは、母親の子どもに対する拒否的態度がB君を徐々に情緒不安定な状態に追いやってこの万引行為を誘発したものである。

○ 小学校低学年のCさんは友達との関係がうまくいかないという主訴で母親と来所した。

相談中も着落きがなく、母親のひざにもたれかかった感じのCさんは幼時より体が弱く2回の入院を経験しているという。

祖母と同居していて平素祖母と母の2人か

ら洋服の着脱の世話から登校の準備にいたるまでみてもらうCさんにとって、自分自身ですべきことはほとんどなかった。

幼児期からこのような状況で成長してきたCさんは自己中心的であり、友達関係はうまくいかなかったのである。

以上三つのケースから親の養育態度は子どもの問題行動の発生と深く関係しているといえる。

しかし、子どもの「心の病」を作ろうとして育児をする親はいない。どの親も子どもの健やかな成長を願って育児を行っているのである。問題行動が発生したことだけに目を向け、それまでの養育態度のすべてを否定してかかるようなことは避けなければいけない。

親の養育態度の問題点の指摘はひかえ、共に子どもの問題について考え、相談を進めていくなかで親自身が問題点に気づき、自らの態度を見つめ直し、改善していくように働きかけることが大切である。

「どうしてあの子はこんなに困らせることをするのでしょうか」と嘆いていた母親が「本当に困っていたのはあの子なんですわねえ」とぼつともらすとき、この相談もようやく軌道に乗ってきたなと実感が湧いてくるのである。親への依存と同一化に起因する子どもの様々な問題行動を解決するにあたっては、親の態度の変容が重要な課題となってくる。

不必要な干渉や先廻りの心配をやめ、子どもの持つ力を信じていくという養育態度が、やがて子どもの心理的成長をうながし、自信を持たせ、自からの力で一步一步進んでいける力をつけていくのである。

受 講 者 の 声

研修、研究、教育相談、図書・資料整備の4事業のうち、特に研修講座については、常に受講者の方々からアンケートを通して御感想等をいただき、講座の企画・運営、内容等に改良を重ねております。

今回は、御感想のいくつかを御紹介しますので、講座の内容や運営等について、御理解いただくとともに、これからもいろいろな参考意見をお寄せください。

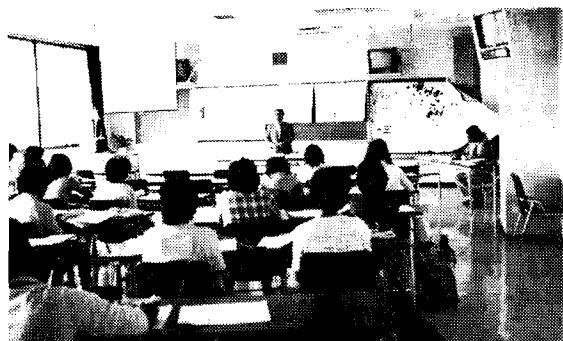
社会科指導講座を受講して

広島市立温品小学校教諭

登 民 夫

本指導講座は、日常の社会科学習を進めていくうえで、苦勞している私にとって意義の多い講座であった。産業学習の教材の精選、歴史学習での地域の教材化、TP作成など、具体的な事例に基づく研修であり、講座の形式が、グループ討議形式であったため問題点が気軽に話し合え、これからの実践において役に立つと思った。

今後、この講座で学んだことを生かし、児童が学ぶ喜びを持つ社会科学習を考え、実践していきたい。



算数科指導講座(1・2年)を受講して

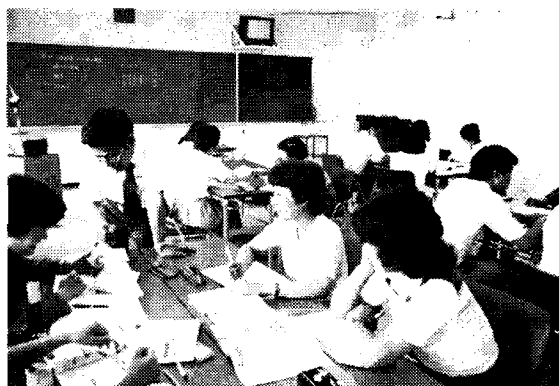
広島市立牛田新町小学校教諭

尾 形 完 治

1学期間延べ3回の講座でしたが、非常に充実した内容であった。「量と測定教材の分析と学習活動の構成」というテーマで、1回目に理論的な面、2回目に教科書の構成研究、そして、3回目には、実践授業という講座の構成であった。

やはり、実践授業による具体に基づいて講座のまとめができたことが何よりすばらしかったと思う。

このような理論と実践が結びついた講座を受講でき、明日からの授業への自信もつたように思う。



学校カウンセラー継続研修講座を受講して

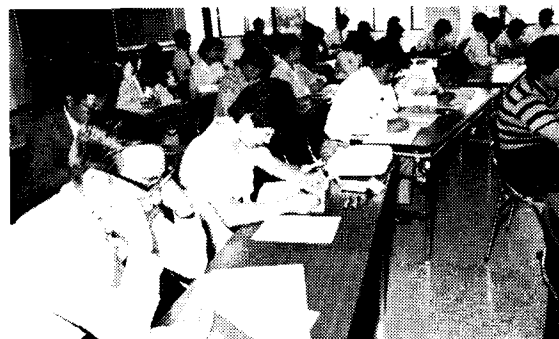
広島市立祇園東中学校教諭

光 原 達 夫

これまでの私は、忙しさについて、生徒だけを変えようとする操作的な態度をとることもあったように思う。

しかし、一方的な教師の態度は、一時の小康を与えるかも知れないが、生徒の心を一層、教師から離すことにもなりかねない。

この講座を受講させていただき、生徒指導にとって、互いに心の通い合い関係を作ることこそ大切だと痛感した。生徒にどのように対応することが教師の役割なのか考え続けていきたいと思う。



教育研究二題

教員特別研修生として、6カ月の研修を終了されたお二人の先生に、それぞれの研究の概要について執筆していただきましたので御紹介します。

人権認識を育てる社会科学習のあり方

——6年生の歴史学習を中心にして——

広島市立三入小学校教諭 藤野 邦子

6年生の歴史学習を通して、一人ひとりの児童に人権認識を育てるためには、学習内容の精選と具体的・計画的な取り組みの方法を明らかにする必要がある。

本研究では、人物や文化遺産を通して各時代の特徴をつかむ中で、民衆の立場に視点において歴史単元の構成をし、それを一覧表にまとめた。

次に、この単元構成をもとにして実証授業（山城国一揆、検地と刀狩り）を行った。単なる知的理解にとどまらず、自分の生き方に深くかかわる認識への高まりは、歴史的事象を通して民衆の生き方や願いに迫り、共感・同化させることによって培われるものと考えた。1時間の指導目標を①知的面（事象を正しくとらえる。）②情意面（民衆の願いや気持ちに共感・同化する。）の両面からとらえ指導過程を工夫した。

検地と刀狩り



特に情意面のゆさぶりにあたっては、吹き出しを使って自分自身とかかわらせた感じ合いをさせる。感想文を書かせる。話し合いで深めるなどの方法をとった。このことによって、その時代を支えた人々に絶えず目を向け人々の心に迫る児童の姿が見られた。

「自らの問題に対処する力」を高めるための中学生への援助活動に関する研究

広島市立幟町中学校教諭 末友 承三

今回の研修では、中学生の発達段階に即したカウンセリングの在り方を探ってみた。特に彼らが問題を抱えながらもそれに対処する力が弱いために解決に向かいにくいことに焦点を当て、その対処力をどのようにして高めていくかを明らかにしようとした。

この研究では、彼らの対処力の診断表やカウンセラーの受容性・共感性の診断表を作成し、モデルケースとして一つの事例にあたり、これらの診断表によって分析・検討を行った。

この事例から考察できた中学生への援助の在り方は、次のようなことである。

彼らとの面接ではカウンセラーは、理想的な変容を求めず、彼らが問題にぶつかることによって持つ緊張や不安を和らげ、正面から問題に対処できるように援助していくこと。

このような認識を持ち彼らとの面接を行う場合、次のようなことに留意する必要がある。

ア 中学生の言語による自己表現力の弱さを乗り越え、彼らの内的世界を感じ取るだけの感受性を持つことが大切である。しかし、深い感受性によって感受したものをそのまま伝えようと、共感関係はかえって深まらず混乱を招くので、それを心に留め、相手の対処力の段階に添ったかたちで伝えることが対処力を高めることになる。

イ 彼らの大人への不信感をほぐし信頼を得るために、安定した受容性と長い期間を要することの認識を持つことが必要である。このような面からみるとき彼らとのカウンセリングは、一般のそれと多少の相違があることが明らかになった。

生徒指導関係研究資料の紹介

児童・生徒の問題行動は、今日、全国的に深刻化・重大化してきています。そこで、今回は、教育関係機関から寄贈していただいた生徒指導に関する研究資料を紹介しますので、御活用ください。

生徒指導

主 題 名	資 料 名	発 行 機 関	発行年 (昭)	請求記号
学校における非行対策についての一考察―生徒と教師の人間関係の改善をめざして―	研修集録第13集	秋田県教育センター、秋田県特殊教育センター	57	05―B
生徒指導に関する調査研究―中学生の意識実態及び行動要因―	紀 要 第 81 号	岡山県教育センター	57	33―B
生徒理解のための多面調査 那覇市中学1年生の意識構造の変遷 昭和51年～昭和56年	生徒指導資料	那覇市立教育研究所 新垣清徳	57	47―B
児童・生徒指導に関する研究―家庭生活における子どもの行動に関する研究 余暇の利用	研究報告書	川崎市教育研究所	57	14―B
小学校における道徳教育、特別活動、生徒指導の全体計画の立案、実施及び評価	研究紀要64集	徳島市教育研究所	57	36―B
子供の生活意識に基づき、健全な生活意欲を育てる生徒指導の研究	研究紀要No.65	福岡県教育センター	57	40―B
生徒指導の実践	紀 要 第 14 号	北九州市立教育センター	57	40―B
小・中・高校生の生活意識の実態に関する研究	研 究 紀 要	丸亀市教育研究所	57	37―B
教育相談の視点に立った生徒指導	特別研究紀要I	三重県総合教育センター	57	24―B
問題行動の理解と指導	教育研究推進校 教育新書28	広島市立基町高等学校 大阪市教育研究所	57 57	34―F―01 27―B
目的意識の希薄な生徒の理解と指導に関する研究	研究シリーズ(3)	広島県立教育センター	57	34―B―12
自己実現を図るカウンセリング―グループカウンセリングを通して―	集録教第74号	沖縄県立教育センター	57	47―B
高等学校生徒指導の実践的研究―実践化をめざした交通問題を軸に―	〃 75号	〃	〃	〃

教育相談

主 題 名	資 料 名	発 行 機 関	発行年 (昭)	請求記号
教育相談 ―21―		台東区立教育研究所	57	13―B
学校教育相談の充実に関する調査研究―無気力と思われる児童生徒の指導法を求めて―	報告書174号	埼玉県立教育センター	57	11―B
学級担任による教育相談Q&A (第4集)		香川県教育センター	57	37―B
教育相談に関する研究―小学校におけるふれあいの教育をすすめるために―	研究報告5601	名古屋市教育センター	57	23―B
登校拒否に関する研究―川崎市における登校拒否児童・生徒の実態―	研究報告書	川崎市教育研究所	57	14―B
登校拒否の治療と親の変容過程について―相談事例を通して―	研究報告5608	名古屋市教育センター	57	23―B
登校拒否児の理解と指導(その2)―登校拒否児の追跡調査を中心に―		福岡市教育センター	57	10―B
児童・生徒の反社会的な問題行動の理解と指導―情緒にかかわる問題をもつ児童・生徒の治療的指導の進め方に関する研究(第4年次報告)	紀 要 56 ― 4	島根県立教育センター	57	32―B

教育センターニュース

教員特別研修生(58年度後期)

後期は次の方々がそれぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- ◆ **国語教育** テーマ：すすんで書く力を伸ばす学習指導法の研究——説明的文章を書く学習（3学年）の指導——
広島市立戸山小学校教諭 竹内 葉子
- ◆ **生徒指導** テーマ：日数が少なく集団にとけこみにくい児童の理解と指導に関する研究
広島市立中筋小学校教諭 渡辺 美紀子

教養講座のおしらせ

- ◆ **講師** 評論家 上坂冬子先生
- ◆ **演題** 人生のドラマ
——私の取材ノートより——
- ◆ **日時** 昭和58年11月30日(水)14:15～
- ◆ **場所** 広島市教育センター
- ◆ **対象** 広島市立学校・幼稚園教職員
社会教育関係職員

~~~~~ 講師の紹介 ~~~~~

昭和24年愛知県豊田東高校卒業。トヨタ自動車工業株式会社入社。OL生活のかたわら上坂冬子のペンネームで文筆活動を始め、昭和36年同社を退社、以後評論家として執筆活動に専念。

処女作「職場の群像」をはじめ著書多数。近著「慶州ナザレ園」はNHKにとりあげられ、社会的に大きな反響をよんでいる。

—— 編集後記 ——

一人ひとりの子どもを生かすということは、すばらしい営みだとしみじみ思う今日この頃です。

今回は生徒指導関係の記事を中心に編集しました。先生方の御参考にしていただければと思います。

巡回教育相談のお知らせ

この数年、児童生徒の性格や行動などに様々な問題が生じてきています。このような問題で悩みや心配をお持ちの先生や保護者の方々のお役に立つために、専門家による巡回教育相談を次のとおり実施します。保護者のみなさまにも、この趣旨を御紹介いただき、それぞれお気軽に御相談においでください。
〔 〕内は該当区です。

- ◆ 12月2日(金) 可部公民館〔安佐北区〕
 - ◆ 1月20日(金) 青少年センター
〔中区・東区〕
 - ◆ 2月10日(金) 草津公民館〔西区〕
- 相談時間は午後1時より午後4時30分までです。相談を希望される方は、下記の中込先まで電話でお申し込みください。秘密は厳守します。なお、相談は無料です。
- ◆ **問い合わせ及び申込先**
広島市教育センター (082)-223-4420

昭和58年度広島市立学校教育研究生

今年は下記の方々がそれぞれの専門分野で研修を進めておられます。

研究部門	氏名	性別	所属
学各	国語	樽馬 泰峯	男 東 浄 小 学 校
		山本 恵子	女 己 斐 中 学 校
習教	社会	田坂 明	男 梅 林 小 学 校
		河野 利夫	男 国 泰 寺 中 学 校
指科	算数	繁野 宜徳	男 伴 小 学 校
		松谷 美恵子	女 三 入 小 学 校
導	理科	長谷 哲郎	男 矢 野 小 学 校
		久保 祥子	女 竹 屋 小 学 校
道徳	美術	福原 正明	男 安 西 中 学 校
	体育	高津 真広	男 中 筋 小 学 校
教育相談	特別活動	竹内 章子	女 落 合 東 小 学 校
		田部 明雄	男 可 部 南 小 学 校
生徒指導	障害児教育	西田 貞記	男 亀 山 中 学 校
		増永 英樹	男 広 島 市 広 島 工 業 高 等 学 校
幼稚園教育	教育工学	古田 寿子	女 本 川 小 学 校
		新谷 拓也	男 広 島 市 広 島 工 業 高 等 学 校
	中上 鈴枝	女 八 木 幼 稚 園	
	原田 知子	女 安 幼 稚 園	